

### 3. 中心市街地の活性化の目標

#### (1) 中心市街地活性化の目標

中心市街地のまちづくりの3つの方針に沿って、次の3つの具体的な目標を設定し、中心市街地全体へ効果をより波及させるため、活性化のテーマを設定して取り組む。

##### <まちづくりの方針>

様々な目的で人が集い賑わうまち

快適、便利で多くの人が住むまち

市民に愛される地域資源があるまち

##### <活性化の目標>

まちなかの賑わい創出

まちなか居住の促進

まちなか交流人口の増加



#### 中心市街地活性化のテーマ

「協働による新たな賑わい創出」～協働によるまちづくり～

まちなかにおいては、「宿場町」、「城下町」の歴史と文化、伝統が蓄積された“地域個性”がある。これらの蓄積を受け継ぎ、地域の個性と特性を生かしつつ、これからの掛川市に新たな賑わいの創出を目指す。

#### 目標1 まちなかの賑わい創出

商業施設、交流施設等のまちなかにある各種の施設がそれぞれの役割や機能を発揮し、連携を図って地域住民に様々な活動や交流を促す。中心市街地においては、“観光客が多い”“買物客が多い”との単純な構成ではなく、様々な人が様々な目的をもって来街し、活動し、生活し、参加、協働し、コミュニティ活動を活発化し、賑わいを創出する。

#### 目標2 まちなか居住の促進

人口減少、少子化、高齢化社会の到来に対応し、誰もが便利で安心して、快適に暮らせる生活基盤機能の整備を行い、多様な都市機能がコンパクトに集積した市街地を形成する。また、良好な都市型住宅等の整備、誘導により、まちなか居住の促進を図る。

#### 目標3 まちなか交流人口の増加

掛川城天守閣周辺の歴史・文化ゾーンには、既存及び整備された地域資源が多くあり、観光客も多く訪れているが、もっと多くの市民が訪れ、利活用され、憩いの場として愛着をもち、誇りをもてるように、施設管理者や市民団体などと協働して来場者等の増加を図ることで、まちなか交流人口の増加を図る。

## 中心市街地活性化の方策

3つの中心市街地の活性化の目標に対して、実現のための対応方向と本計画における対応方策を検討する。

目標	対応方向	基本計画における方策
<b>目標 1</b> まちなかの賑わい創出	<p>掛川公園周辺の歴史文化施設の魅力を活かし市民が憩える生涯学習の活動拠点として、日常的に活用できる事業を推進する。</p> <p>経営者の高齢化や施設の老朽化、魅力機能の低下、後継者難などから一般商店の閉店が進行し、空き地・空き店舗の増加が進んでいるため支援事業などにより防止対策を推進する。</p> <p>事業所、アミューズメント施設等の立地が少ないため、生活利便の高い業種が求められている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間活力による掛川城周辺施設の一括管理を行い市民サービスの向上</li> <li>・東街区商業施設集積事業の推進</li> <li>・西街区開発事業による生活利便の向上</li> <li>・空き店舗、空き地活用の支援事業の展開</li> <li>・駐車場運営事業による商店会等との連携</li> </ul>
<b>目標 2</b> まちなか居住の促進	<p>少子高齢化社会、人口減少時代の中で、中心市街地に欠けている商業施設等の利便性を高め、公共交通の結節点を活かした事業を展開する。まちなかの賑わい創出のため住みやすい住環境整備が必要であり、大規模遊休地を活用した住宅整備を図る必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東街区再開発事業による住宅の整備</li> <li>・西街区開発事業による住宅整備</li> <li>・民間住宅の整備促進</li> <li>・塩町中央線整備事業の整備促進</li> </ul>
<b>目標 3</b> まちなか交流人口の増加	<p>掛川市の財産である掛川城周辺地施設の地域資源を積極的に活かし、観光客をはじめ、様々な文化活動に市民が積極的に参加出来る仕組みを整え中心市街地の活性化を推進する。</p> <p>賑わい創出に寄与するソフト事業を実施しながら中心軸のポテンシャルを向上させ、沿道の機能更新や土地の高度利用及び共同化を促す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掛川城等施設運営事業と周辺施設の連携及び市民交流の推進</li> <li>・再開発地区の商業集積整備により掛川産を活用した6次産業開発の推進</li> <li>・掛川らしいまち並みの整備</li> <li>・掛川観光型交流ツーリズム事業、憩いのスペース整備運営事業の推進</li> </ul>

## **（２） 計画期間の考え方**

目標年次は、新規事業が完了し、事業効果が発現する時期を考慮し、平成 31 年度とする。よって、本計画期間は、平成 27 年 4 月から平成 32 年 3 月までの 5 年とする。

## **（３） 目標指標の設定の考え方**

本市における新計画は、その基本的な方向性については前計画と変更はないが、部分的に新しい視点から目標を設定する。

まず、前計画の目標「様々な目的で人が集う賑わいのあるまち」として「平日の歩行者通行量」を指標としたが、本計画でも賑わいを明確な数値で示すことができ、過去のデータと比較出来る「平日の歩行者通行量」とする。

また、前計画同様の「居住人口」を指標とする目標「まちなか居住の促進」として、まちなかの居住人口の増加に取り組む。居住人口が全ての社会経済活動の源泉であり、賑わいに繋がることから引き続き設定する。

次に、「活発な商業・業務・サービス活動のあるまち」として「営業店舗数」を指標として各種事業を展開してきた結果、若手起業家が創業支援を基本とする店舗展開などに繋がり、目標を達成した。そのため、今回は、掛川市を代表する地域資源である掛川城や竹の丸など多くの歴史文化施設が集積する掛川城公園を中心に、市民に愛される地域資源が多くあるということから、まず市民にもっと利用され、市民の憩いの場となるように、目標を「市民に愛される地域資源が多くあるまち」と設定し、指標を「まちなか交流人口（掛川城周辺施設利用者数等）」とする。さらに、この目標は、各種事業を展開することで、掛川市が掲げる「健康・環境・市民活動日本一」にも繋がるものである。

## 目標 1：まちなかの賑わい創出

### (a) 定量的な指標の設定

#### ①指標設定の考え方

「まちなかの賑わい創出」の指標として、中心市街地における様々な目的での来街者を包括する「主要地点の歩行者通行量」とする。

中心市街地の主要地点については、区域内の回遊性を図ることが可能な、定点観測を行っている 7 地点を設定する。

また、観測調査については、“平日”、“休日”の両日とも実施するが、日々の賑わいが重要であることから、“平日”を指標とする。

このため、目標とする指標の「歩行者通行量」は、“平日”とし、数値は「平日の主要 7 地点合計の 10 時間の歩行者通行量」とする。

#### ②歩行者通行量の推移

中心市街地の歩行者通行量を主要 7 地点の合計でみると、平成 26 年の平日で 5,285 人、休日で 9,025 人である。平成 19 年と比較すると平日は 812 人減少しているが、休日は 3,147 人増加している。

■中心市街地の歩行者通行量の推移

		平日	休日
主要 7 地点 合計	平成19年	6,097	5,878
	平成20年	5,464	7,652
	平成21年	5,211	7,242
	平成22年	5,602	7,030
	平成23年	4,661	6,606
	平成24年	5,963	—
	平成25年	5,474	7,805
	平成26年	5,285	9,025

資料：かけがわ街づくり㈱通行量調査  
 中心市街地主要 7 地点定点観測調査  
 午前 10 時～午後 8 時の 10 時間通行量測定合計値  
 平成 24 年度まで毎 4 月中旬  
 平成 25 年度から毎 5 月下旬調査  
 ※平成 24 の休日は荒天のため調査とりやめ

### (b) 数値目標の設定

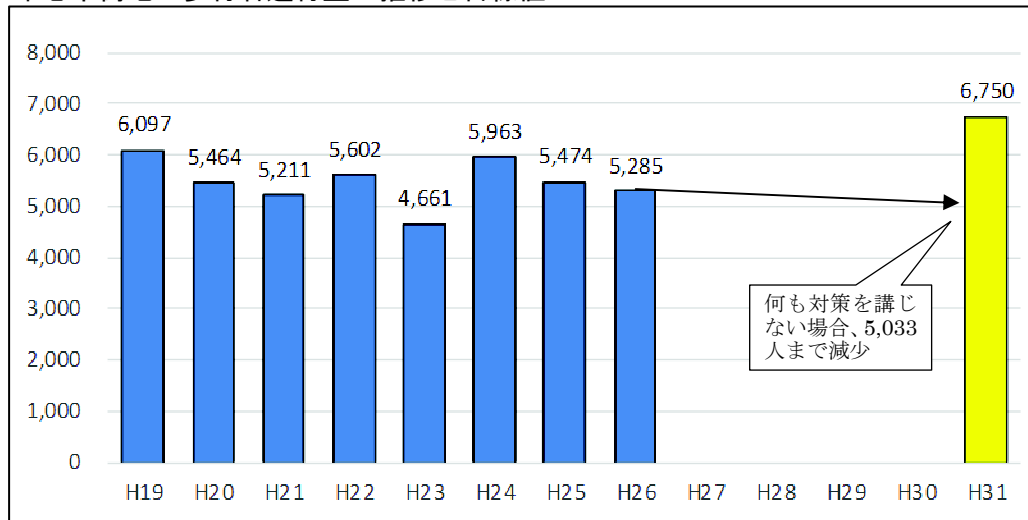
平成 19 年から平成 26 年までの実績値を基に、近似式（線形近似）から推計すると、何も対策を講じない場合、平成 31 年の歩行者通行量の推計値は、5,033 人/日となる。

本計画においては、現況値より約 27%増やすことを目指し、数値目標を設定する。

■歩行者通行量（平日）（7地点の合計値）

現況値（H26）	目標値（H31）
5,285 人	6,750 人

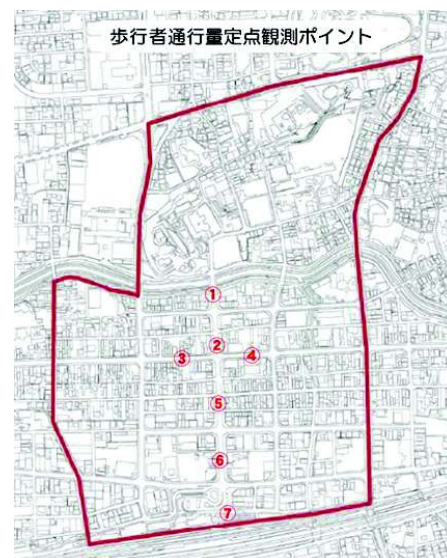
■中心市街地の歩行者通行量の推移と目標値



■中心市街地の歩行者通行量（平日）（7地点）の推移

番号	地点名	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
1	緑橋	955	605	608	741	529	711	725	515
2	ねむの木ギャラリー前	577	487	497	507	437	566	469	467
3	中町伊藤菓子舗前	310	286	270	257	216	318	274	278
4	遠雀みらいふ前	450	438	496	404	427	503	667	725
5	駅通梅廻家前	855	688	695	807	662	800	727	776
6	駅通りブティックサト前	1,173	1,099	969	994	763	1,005	895	881
7	駅南北自由通路	1,777	1,861	1,676	1,892	1,627	2,060	1,717	1,643
年度計		6,097	5,464	5,211	5,602	4,661	5,963	5,474	5,285

資料：かけがわ街づくり㈱通行量調査  
 中心市街地主要7地点定点観測調査  
 午前10時～午後8時の10時間通行量測定合計値  
 平成24年度まで毎4月中旬  
 平成25年度から毎5月下旬調査



## ■歩行者通行量の算出基礎

### 1 これまでの推移による歩行者通行量の推計値

- ・平成 19 年から平成 26 年までの推移から、近似式（線形）を用いて目標年次の推計値を求める。（主要 7 地点、平日 10 時間、以下同じ）

**○小計 平成 31 年推計値 5,033 人**

### 2 東街区商業施設の利用者数

東街区商業集積事業（掛川駅前東街区第一種市街地再開発事業）において整備される商業施設利用者から歩行者通行量を算定する。

- ・「大規模小売店舗を設置するものが配慮すべき事項に関する指針」（平成 19 年 2 月 1 日経済産業省告示第 16 号）を参考に集客数を算定する。

掛川市の人口は 40 万人未満であるため、「 $1,100-30S$ （ $S < 5$ ）」を用いる。

$$S=1.2 \text{ 千} \text{ m}^2 \quad 1,100-30 \times 1.2 \text{ 千} \text{ m}^2=1,064 \text{ 人/千} \text{ m}^2$$

$$1,064 \text{ 人/千} \text{ m}^2 \times 1.2 \text{ 千} \text{ m}^2=1,277 \text{ 人（1 日あたりの来場者数）}$$

- ・来店方法割合（事業者のマーケティング調査から、徒歩来店割合を 50%と見込む。）
- ・歩行者の通過ポイント（歩行者は、観測ポイント⑥を往復通過）
- ・歩行者数算定

$$1 \text{ 日あたり来場者数} \times \text{徒歩割合} \times \text{観測ポイント⑥（往復）}$$

$$=1,277 \text{ 人} \times 50\% \times 2 \text{ 回} = 1,277 \text{ 人}$$

**○小計 歩行者通行量 1,277 人**

### 3 西街区開発事業における施設利用者数

西街区開発事業（優良建築物等整備事業予定）において整備される施設利用者から歩行者通行量を算定する。

- ・想定する商業施設面積 300  $\text{m}^2$ 、多目的ホール 700  $\text{m}^2$ の利用者から歩行者数を求める。  
予定店舗の H25 実績データから、1 日あたり 860 人を見込む。

多目的ホールは、美感ホール及び商工会議所ホールの実績から、1 日あたり 186 人を見込む

- ・来店方法割合（東街区を参考に、徒歩割合 50%と想定）
- ・歩行者の通過ポイント（観測ポイント⑥を往復通過）
- ・歩行者の通過割合（歩行者通行量調査から南北からの割合を推計し、16%とする）
- ・歩行者数算定

$$1 \text{ 日あたり来場者数} \times \text{徒歩割合} \times \text{観測ポイント⑥（往復）} \times \text{通過割合}$$

$$= (860 \text{ 人} + 186 \text{ 人}) \times 50\% \times 2 \text{ 回} \times 16\% = 167 \text{ 人}$$

**○小計 歩行者通行量 167 人**

#### 4 集合住宅居住者

東街区及び西街区の新規住宅居住者の歩行者通行量を算定する。

- ・新規戸数（東街区 67 戸＋西街区 84 戸）
- ・1 戸あたり世帯人数 2.38 人（住民基本台帳により算定 P79, 80 参照）
- ・増加人数  $151 \text{ 戸} \times 2.38 \text{ 人} = 359 \text{ 人}$
- ・転入者割合（市外から及び市内地区外から）

再開発事業での分譲マンションの「みらいふ掛川」の実績から割合を算定。

市外からの転入者 43%、市内地区外からの転入者 37% …… 合計 80%

- ・歩行者の通過ポイント

居住者は、外出時に観測ポイント⑥を通過（みらいふ掛川の行動アンケートにより 1 日平均 1 回外出、調査時間が 10 時からのため 1 回で算定）

- ・歩行者数算定

増加人数  $\times$  転入割合  $\times$  観測ポイント⑥（1 回）

$= 359 \text{ 人} \times 80\% \times 1 \text{ 回} = 287 \text{ 人}$

#### 5 目標値合計

番号	項 目	増加数
1	目標年次推計値	5,033 人
2	東街区商業施設利用者数	1,277 人
3	西街区商業施設利用者数	167 人
4	集合住宅居住者	287 人
合 計		6,764 人

目標数値 6,750 人

## 目標 2 : まちなか居住の促進

### (a) 定量的な指標の設定

#### ①指標設定の考え方

“快適、便利で多くの人が住むまち”の成果は、そこに住む人の数で示される。このことから、目標とする指標は「中心市街地の居住人口」とする。中心市街地の人口は、年々減り続けており、この減少を食い止め、増加に転じることを目標の成果とする。

#### ②人口の推移

平成 21 年を境に、市全体の人口も減少し始め、中心市街地における人口も、核家族化、少子化、居住の郊外化等により、減少が続いている。

#### ■中心市街地の人口、世帯数、世帯人員の推移

	人口		世帯数		世帯人員 (人)	摘要
	(人)	対 57 年比 (%)	(世帯)	対 57 年比 (%)		
昭和 54 年	2,889	105.9	791	103.9	3.65	
昭和 57 年	2,729	100.0	761	100.0	3.59	
昭和 60 年	2,552	93.5	737	96.8	3.46	
昭和 63 年	2,280	83.5	674	88.6	3.38	
平成 3 年	2,177	79.8	672	88.3	3.24	
平成 9 年	1,926	70.6	658	86.5	2.93	駅北区画整理完了
平成 10 年	1,911	70.0	666	87.5	2.87	
平成 12 年	1,834	67.2	648	85.2	2.83	
平成 13 年	1,764	64.6	630	82.8	2.80	
平成 14 年	1,797	65.8	651	85.5	2.76	
平成 15 年	1,764	64.6	648	85.2	2.72	
平成 18 年	1,678	61.5	650	85.4	2.58	
平成 19 年	1,611	59.0	642	84.4	2.51	
平成 20 年	1,579	57.9	620	81.5	2.55	
平成 21 年	1,592	58.3	631	82.9	2.52	
平成 22 年	1,563	57.3	627	82.4	2.49	
平成 23 年	1,523	55.8	617	81.1	2.47	
平成 24 年	1,494	54.7	613	80.6	2.44	
平成 25 年	1,468	53.8	615	80.8	2.39	
平成 26 年	1,459	53.4	614	80.7	2.38	

資料:住民基本台帳各年 3 月末日



(b) 目標数値の設定

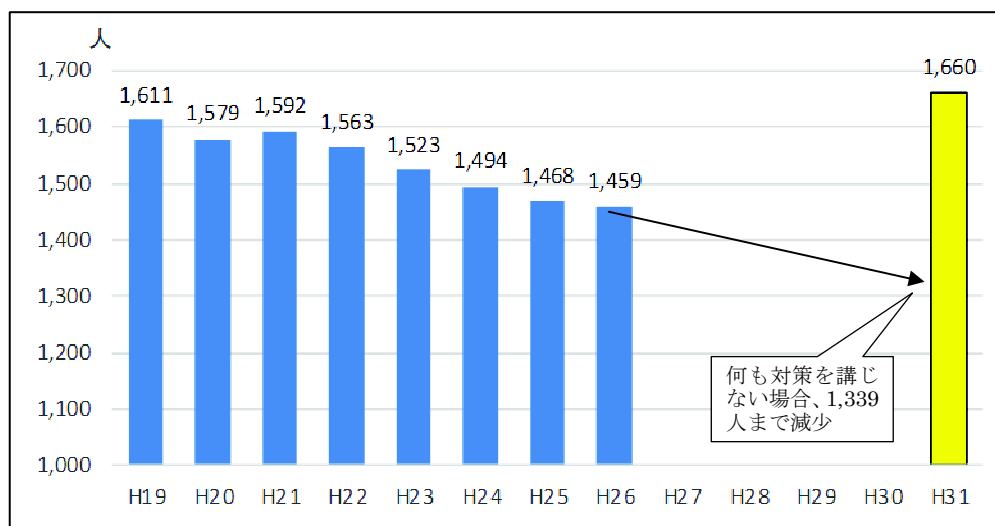
平成 19 年から平成 26 年までの推移から、近似式（線形）を用いて推計すると、何も対策を講じない場合、平成 31 年の中心市街地の居住人口の推計値は、1,339 人となる。

本計画においては、現況値より約 14%増やすことを目指し、数値目標を設定する。

■中心市街地の居住人口

現況値 (H26)	目標値 (H31)
1,459 人	1,660 人

■中心市街地の居住人口の推移



■平成26年度中心市街地居住人口

4/1現在

行政区	世帯数	人口計	0～14歳	15～64歳	65歳以上
肴町	77	206	28	102	76
栄町	22	57	4	25	28
紺屋町	65	130	8	69	53
中町	80	201	17	107	77
緑町	66	184	24	96	64
連雀	64	155	12	97	46
大手町	11	34	7	17	10
松尾町	83	192	21	91	80
城内	58	129	10	63	56
研屋町	88	171	13	105	53
合計	614	1,459	144	772	543

資料：掛川市統計書

※中心市街地の1世帯あたりの人数

1,459人÷614世帯＝ 2.38 人

## ■居住人口の算出基礎

### 1 これまでの推移による居住人口推計値

平成 19 年から平成 26 年までの推移から、近似式（線形）を用いて推計値を求める。

**○小計 中心市街地の居住人口推計値 1,339 人**

### 2 空き地利用促進事業（P103 参照）

中心市街地の未利用地での建物建設に対して補助を行い、民間による戸建て及び集合住宅の建設を推進する。建築業者及び地権者への投資意欲を高め、戸建て住宅は 5 年間で 5 戸、集合住宅は 5 年間で 16 戸分の整備を、現時点（H26. 10 月）での建築相談等の情報から想定する。

建設想定戸数 21 戸

中心市街地の 1 世帯平均人数 2.38 人（P84, 85 参照）

$21 \text{ 戸} \times 2.38 \text{ 人} \div 50$

**○小計 居住者数 50 人**

### 3 掛川駅前東街区及び西街区の再開発事業等における集合住宅の整備（P102, 103 参照）

掛川駅前東街区における市街地再開発事業において、平成 28 年度に集合住宅が整備され、居住が始まる。総戸数 77 戸のマンションで、67 戸を一般分譲する。また、西街区においては、平成 30 年度に 84 戸の分譲想定している。

新規住宅戸数 151 戸

中心市街地の 1 世帯平均人数 2.38 人（P84, 85 参照）

**○小計 居住者数 359 人**

### 4 目標値合計

**2～3**の居住者数に転入割合（市外から及び市内地区外）を乗じて、新規増加人数を求め、目標値の合計を算出する。

転入割合は、中心市街地内で実施された再開発事業の「みらいふ掛川」の入居者の転入率を参考にする。

みらいふ掛川（分譲マンション） 市外からの転入者 43%

市内からの地区外転入者 37%

**計 80%**

番号	項 目	居住人数	転入率	増加数
①	目標年次推計値	1,339 人	—	1,339 人
②	空き地利用促進事業	50 人	80%	40 人
③	東街区、西街区再開発事業	359 人	80%	287 人
合 計				1,666 人

目標数値 1,660 人

### 目標 3：まちなか交流人口の増加

#### (a) 定量的な指標の設定

##### ①指標設定の考え方

前計画の事業において、掛川城周辺施設の整備がほぼ完了し、また平成 26 年度から掛川城周辺施設の指定管理者が新たな民間事業者となり、周辺施設との連携を実施することが検討され、改めて施設利用者等の増加が見込まれるようになった。

そのため、本計画においては、新たな目標として掲げた”市民に愛される地域資源があるまち”の指標を「まちなか交流人口の増加」とし、掛川城周辺施設の施設利用者数等の増加を成果とする。

掛川城天守閣は平成 6 年に、市民から多くの募金が集まり、本格木造復元され、掛川市を象徴するものとなった。完成後は多くの観光客が訪れ、賑わいをみせたが、ここ数年は 11 万人程で横ばいとなっている。

掛川城周辺には、御殿、二の丸茶室、二の丸美術館、竹の丸、大日本報徳社、中央図書館、など歴史・文化施設や水天宮、おびんづる、三光稲荷などの地域資源が多くあり、集客する資源として非常に高いポテンシャルを持っている。また、二の丸美術館北側にステンドグラス美術館が現在建設中で、平成 27 年 4 月オープン予定である。

このような地域資源豊富な掛川城周辺施設が、市民のいこいの場として、まず多くの市民に利用され、愛され、誇りを持つことで、情報発信やPRができて、より多くの観光客が来ることに繋がっていくと考える。まさに、論語にあるように「近きもの説（よろこび遠き者来る）」ことを目指し、さらに商店街や市民団体などと連携を図ることで、回遊性がある施策の展開をして新たな賑わいを創出する。

##### ②まちなか交流人口の推移（掛川城周辺の歴史・文化施設利用者等に限る）

平成 21 年から年間 50 万人以下を推移している。

##### ■掛川城周辺歴史・文化施設利用者等の推移

年度	掛川城	二の丸茶室	竹の丸	二の丸美術館	大日本報徳社	中央図書館	ステンドグラス館	合計
H21	111,154	13,346	25,282	33,392	—	308,422	—	491,596
H22	105,908	13,588	12,473	29,007	—	303,400	—	464,376
H23	111,113	14,070	10,798	28,741	—	316,099	—	480,821
H24	114,508	14,099	11,411	26,876	2,084	310,844	—	479,822
H25	109,857	13,082	17,004	23,126	2,464	304,301	—	469,834

資料：掛川市統計書（大日本報徳社は聞き取り調査（H26.10）、それ以外は掛川市統計書（H26.4））

### (b) 目標数値の設定

まちなか交流人口（掛川城周辺施設利用者等）は、平成 25 年まで減少が続いており、近似式（線形近似）で目標年次を推計すると、何も対策を講じない場合、約 454,800 人となる。

本計画においては、掛川城を中心に各施設や商店街と連携を図ることで、現況値より約 15%増やすことを目指し、数値目標を設定する。

#### ■まちなか交流人口（掛川城周辺施設利用者数）

現況値（H25）	目標値（H31）
469,834 人	541,000 人

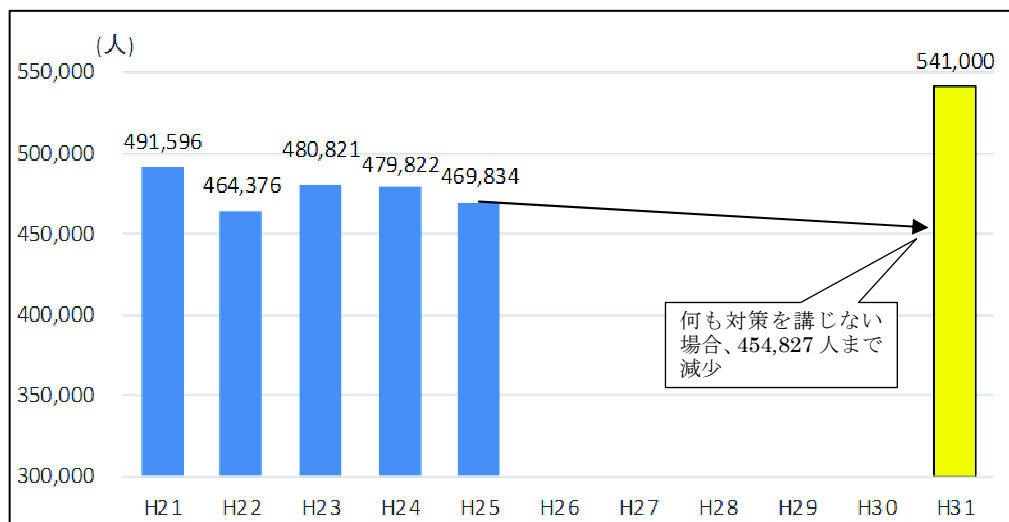
※対象施設は以下の通りとする。

指定管理施設：掛川城天守閣（御殿）、二の丸茶室、竹の丸、  
ステンドグラス美術館（予定）

掛川市管理施設：二の丸美術館、中央図書館

民間管理施設：大日本報徳社

#### ■まちなか交流人口の推移



## ■まちなか交流人口の算出基礎

### 1 これまでの推移による交流人口推計値

- ・平成 21 年～25 年の推移から近似式（線形）を用いて推計値を求める。

○小計 まちなか交流人口推計値 454,827 人（目標年次）

### 2 掛川城天守閣・御殿、二の丸茶室、竹の丸（指定管理施設）

平成 26 年度から指定管理を受けた民間事業者が実施する増加施策をもとに、来場者数の増加を図る。

- ・基礎数値（H24 実績）：140,000 人
- ・掛川城等施設管理運営事業（P100 参照）

市民の憩いの場とするため、ベンチ整備、ガーデンライブラリーなどを隣接する中央図書館や二の丸美術館と連携して事業を実施し、来場者の増加を図る。

商店街との連携も行い、スタンプラリーなど相互協力をし、回遊性を持たせ、交流人口増、賑わい創出を図る。

- ※ 平成 26 年度から指定管理を受託している民間企業者の事業計画では、来場者数を平成 24 年実績値から毎年 5%アップさせ、7 年目の平成 32 年には 20 万人の来場者数を目標としている。

本計画では、目標年次を平成 31 年度としているため、平成 24 年度実績値の 14 万人を基準にして、指定管理者の事業計画を基に毎年 5%の交流人口増を見込む。

- ・140,000 人×5%×5 年 = 35,000 人

○小計 施設利用者等増加数 35,000 人（目標年次）

### 3 大日本報徳社

前計画において整備し、国指定重要文化財となった大講堂や関係施設を広く一般に活用してもらうイベント等を実施することで、利用者の増加を図る。

- ・大日本報徳社利用促進事業（P100 参照）

大講堂を研修施設として、民間企業へ研修利用促進として P R や情報発信を行う。また、大講堂を多目的ホール的な柔軟な活用をし、一般市民向けに各種講座なども開催し、利用者の増加に繋げる。

なお、掛川城等の指定管理者と協力し、共通入場券など施設間連携を図ることも検討していく。

- ※ 事業者の事業計画では、基準値は平成 26 年の利用者見込数の 3,000 人を基準とし、毎年基準値の 10%の利用者増を目標としている。

本計画では、同様に事業者の事業計画を基に、毎年 10%の交流人口増を見込む。

- ・基礎数値（H26 見込）：3,000 人
- ・3,000 人×10%×5 年 ＝ 1,500 人

**○小計 施設利用者等増加数 1,500 人（目標年次）**

#### **4** 掛川市立中央図書館

掛川城等の指定管理者と協力、連携して、入館者数の増加を図る。

- ・中央図書館利用促進事業（P101 参照）

掛川城等の指定管理者と連携して、ガーデンライブラリーなどを実施し、掛川城公園を広く活用し、市民の憩いの場としての演出をすることで、入館者の増加を図る。その他、読み聞かせなど子供を対象とした事業を実施し、親子での来場を促す。

※ 管理者の実施計画において、目標年次の入館者数を 318,000 人としている。

本計画では、同様に管理者の実施計画を基に、目標年次の入館者数を 318,000 人に設定し、交流人口増を見込む。

- ・基礎数値（H25 実績）：304,301 人
- ・318,000 人－304,301 人 ＝ 13,699 人

**○小計 施設利用者等増加数 13,699 人（目標年次）**

#### **5** 二の丸美術館

減少傾向にある入館者数を、掛川城等の指定管理者やと連携して増加を図る。

- ・二の丸美術館利用促進事業（P101 参照）

新たにオープンするステンドグラス美術館や掛川城等の指定管理者と連携して、各種事業を展開することで、入館者の増加を図る。

※ 管理者の実施計画において、目標年次の入館者数を 25,000 人としている。

本計画では、同様に管理者の実施計画を基に、目標年次の入館者数を 25,000 人に設定し、交流人口増を見込む。

- ・基礎数値（H25 実績）：23,126 人
- ・25,000 人－23,126 人 ＝ 1,874 人

**○小計 施設利用者等増加数 1,874 人（目標年次）**

#### **6** ステンドグラス美術館

二の丸美術館北側にステンドグラス美術館が、平成 27 年度に開館するため、多くの入館者が見込まれる。

- ・ステンドグラス美術館管理運営事業（P100 参照）

新たな施設が、歴史文化ゾーンにオープンすることで、集客力アップとなるため、周辺施設と連携し、回遊性をもたせ、滞留時間を延長させることで賑わいを創出し、

交流人口の増加を図る。

※ 管理者の事業計画において、目標年次の入館者数を 35,000 人としている。

本計画では、同様に管理者の事業計画を基に、目標年次の入館者数を 35,000 人に設定し、交流人口増を見込む。

・H31 推計値：35,000 人

○小計 施設利用者等増加数 35,000 人（目標年次）

**7** 目標値合計

番号	項 目	増加数
<b>1</b>	交流人口推計値	454,827 人
<b>2</b>	掛川城天守閣・御殿、二の丸茶室、竹の丸	35,000 人
<b>3</b>	大日本報徳社	1,500 人
<b>4</b>	掛川市立中央図書館	13,699 人
<b>5</b>	二の丸美術館	1,874 人
<b>6</b>	ステンドグラス美術館	35,000 人
合 計		541,900 人

目標数値 541,000 人

**（４）フォローアップの時期及び方法**

**目標 1**

中心市街地の主要 7 地点の歩行者通行量を数値目標とするため、毎年調査を実施し、数値目標を検証し、状況に応じて目標達成に向けた改善措置を講じる。また、最終年度の 31 年度以降についても、再度数値目標の検証を行うものとする。

**目標 2**

中心市街地の居住人口を数値目標とするため、毎年 4 月 1 日現在の住民基本台帳を基に算定し、数値目標を検証し、状況に応じて目標達成に向けた改善措置を講じる。また、最終年度の 31 年度以降についても、再度数値目標の検証を行うものとする。

**目標 3**

まちなかの交流人口を数値目標とするため、毎年度ごとに数値目標を検証し、状況に応じて目標達成に向けた改善措置を講じる。また、最終年度の 31 年度以降についても、再度数値目標の検証を行うものとする。